

「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第 111 回

『個性と多様性』 ～ チームを組むリレー形式 ～』

2022年5月29日『リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2022 ところざわ』（所沢航空記念公園に於いて）で講演の機会が与えられた（画像）。日本対がん協会会長/国立がんセンター名誉総長の垣添忠生 先生も聴講して頂き、大変感激した。講演後は、3名との個人面談のテントも用意され、大変貴重な時となった。

【リレー・フォー・ライフ（RFL）は、がん征圧をめざすためのチャリティ活動です。1985年にアメリカ・ワシントン州シアトル郊外で、アメリカ対がん協会のクラット医師が陸上競技場を24時間走り続けて寄付を募ったことが始まりです。その後は、患者、家族や友人、医療者、健康な仲間たちが一緒にチームを組むリレー形式となりました。がん細胞は24時間眠らず、がん患者は常に闘い続けていることから、患者を勇気付けるために夜を徹して歩き続ける中で、地域社会全体でがんを闘うための連帯感を育む場として大きく広がり、今では全米を中心に24ヵ国、世界の5,500ヵ所以上で行われる地球規模の催しになりました。RFLはボランティアの手作りで企画・運営され、参加者の参加金・寄付金・企業協賛金などが、がん研究者への助成、奨学金、がん相談や検診率向上のためのがん患者支援活動に使われます。日本では、国民の半数が人生で一度はがんにかかり、その結果、3人に1人ががんで生涯を終えています。その現実を見れば、がん克服は全ての国民の課題といっても過言ではありません。こうした現実を皆が認識し、がん予防や早期発見に努めること、また情報の開示、がん患者さんとその家族の心理的・身体的な苦痛の緩和・療養生活の質の維持向上など、国民のすべてががんを理解し地域社会と連帯して、患者や患者家族を支援することが求められています。今、私たちにできることは、こうしたことを広く啓発・広報し、心に留めて、同じ苦しみを未来ある子供たちに経験させない社会に変えていくことです。そのためにも、「リレー・フォー・ライフ」を地域社会全体の活動として大きく育てていくことが必要です。こうした活動の意義を広くみなさまにご理解いただき、ご協力をいただきながら、社会により大きな希望と勇気を与えられるようみなさまと共に歩んでまいりたいと願っています。】と謳われている。

【日本では 2006 年に茨城県つくば市でトライアルがあり、翌年から芦屋市と東京・お台場で始まりました。その後、全国で年を追って増え続け、現在では 50 箇所での開催が予定されています。】とのことである。終了後、息子の企画で、wife と息子の友人のご家族と 国立競技場でのラグビー『東京サンゴリアス vs 埼玉ワイルドナイツ』観戦に向かった（画像）。ラグビー選手の必死な姿勢には大いに感動した。『リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2022 ところざわ』と『ラグビー観戦』は、「人間の個性と多様性」を痛感する有意義な充実した 1 日となった。

講演③ 5/28(土) 16:35~17:25 会場ステージにリアル登壇

サバイバル体験談「夢を持つこと、その先に広がる多くのつながり」

トライアスロン選手として五輪を目指していた椿さん。膝や腰を思い悩め、復帰するも、以前の自分とのギャップに驚き引退も考えました。しかし、今一度競技と向き合い、2021 パラリンピックで伴走者として銅メダルを獲得しました。現在は、思いも新たに、ご自身のバリ五輪出場を目指しています。

病気を言い訳にしていた自分が変わった

「病気をしたから強くなるのではなく、支えられていること・人の思いをより知ることができて強くなる」

「病気はヘラペではない。子どもたちにもそう感じてほしくない。」

五輪を目指す椿さんだからこそ、多くの方の心に響く熱いメッセージをぜひ聞いてください。



椿浩平 (つばきこうへい) 氏
三井住友海上保険(株)トライアスロン部所属/トライアスロン、アスリート



5月29日(日)

講演④ 5/29(日) 10:00~10:30 会場ステージにリアル登壇



横野 興夫 (ひのおきお) 先生

順天堂大学名誉教授 / (一社)がん哲学外来理事長 / 新選戸崎記念センター長 / 恵泉女子学園理事長

がん哲学外来カフェ「がん細胞から学んだ生き方」

「がん細胞で起こることは、人間社会でも起こる」=がん哲学

突然のコロナ禍や大国による戦争など理不尽な出来事に、自分の在り方や生き方を考えさせられます。がんサバイバーさんのみならず、今を生きている全ての人々へ、「言葉の処方箋」をお届けします。

<特別企画 個人面談> 10:30~11:30

限定3名様 申込み受付 (5/10~) 先着順
先生と直接お話しして、貴方だけの言葉の処方箋をぜひ受け取ってください。お申込みは 090-3311-5166 まで



講演⑤ 5/29(日) 11:30~12:00 会場ステージにリアル登壇

「コロナ禍で検診 受診を妨げているものは何か」

まず「がんとはどういう病気か?」:がんは遺伝子の異常により発生する細胞の病気です。遺伝子に傷をつける原因としては、たばこ、食事、感染症などが主要因です。高いで「がん検診」の話:がんは身体の中に発生した初期の段階では何の症状もありません。この、自分は健康だと思っている時期に、国が勧める胃、肺、大腸、乳、子宮頸がんの検診を受け、早期発見、早期治療により、がんになっても死なないことが検診の目的です。

最後に「コロナの影響」:感染症の恐怖から、がん検診受診者が一時激減しました。

三密を避ける、予約制の導入などで安全に検診受診は可能です。是非、受けてください。



垣添 忠生 (かきぞえただお) 会長 (公財)日本対がん協会会長 / 国立がんセンター名誉院長

<進行: 2025.FRLJ ところざわ実行委員会>